

枠組設定の切り口

● 重点戦略（先導的戦略）の導出方法と取組イメージ

環境都市像 (2050年)		ひと(生活)		まち(空間)		しくみ	
●2020年までの5年間で目指す内容 ”別紙2”環境都市像の段階的な区分の中で「形成期」に示した内容		●市民の暮らしの視点では みんなが“もったいないの心”を持って、自然の恵みとエコで便利なライフスタイルを満喫しながら、健康で快適に暮らせるまち		●まちの空間の視点では 水と緑があふれる空間の中に、様々な機能をもった拠点が形成され、誰もが目的にあわせて自由に活動、移動できる利便性の高いコンパクトなまち		●暮らしや空間を支える仕組みの視点では みんなが“もったいないの心”で自然・文化・人・モノを大切に上手に活用する。環境にやさしい循環の仕組みが、エコな暮らしや経済活動を支えているまち	
地球環境 (低炭素)	太陽光や蓄電池(EV)等を活用した災害にも強い住宅の普及、最適なエネルギー管理の拡大		・ 家庭における創エネ蓄エネの普及拡大	・ エネルギー利用の効率化・最適化の推進			・ 新たなエネルギーの利用に向けた検討(水素・バイオマス等)
	公共交通の利便性向上、低炭素型モビリティの導入促進		・ EVなどの低環境負荷型自動車の普及拡大		・ LRTの導入 ・ 公共交通利用者の利便性を向上する利用環境整備 ・ 自転車を活用した地域活性化策の推進		
資源循環 (廃棄物)	ごみの分別やリサイクルへの理解促進		・ リユース品の利用促進				・ 生ごみのエネルギー化に向けた手法の検討
	3Rに参画することができる仕組みの推進	・ 市民が活用しやすい情報発信の充実(ごみ、温室効果ガス等)					・ 市民ニーズに対応した効率的・効果的な収集・回収方法の検討
自然共生 (自然環境)	里地・里山を保全する取組の普及、学びの場としての活用		・ 生物多様性の理解に向けた啓発 ・ 自然とふれあえる環境づくりの推進	・ 市街地における緑化の推進			・ 環境配慮型農業事業の推進 ・ 自然環境保全活動(植樹、エコツーリズムなど)の確保、創出
	地域資源を活用した地域活性化策などの取組の拡大						・ 事業者の省エネに携わる人材の育成 ・ 地域活動推進策の充実
推進基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・もったいない精神の定着による環境配慮行動のスタンダード化 ・環境学習の機会の拡大、市民の主体的な環境活動への参加 ・自然の恵みや地域固有の特性を活かした地域活動の拡大 ・空き家が減少し景観や安全性への悪影響が軽減され、安心・安全な空間の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・もったいない宇都宮運動の推進 ・環境学習センターの機能の充実 ・気候変動への適応に関する普及啓発 					
重点戦略		① もったいないの精神を持った人づくり	② エコで便利なライフスタイルを生み出す行動促進	③ コンパクトな地域づくり	④ グリーンな交通システムの構築		⑤ 持続可能な社会を支える産業や連携の形成
		⑥ 社会全体を先導する市の率先行動		<ul style="list-style-type: none"> ・市有施設のポテンシャル診断を踏まえた省エネルギー改修 ・市有施設の防災拠点への再エネ蓄エネ導入 ・市の事務事業における環境配慮行動の推進 ・事業者と市が連携した環境活動の推進 			

具体的事業選定の切り口

